

# RPC-M5CSファームウェアバージョンアップ

## 4.30Aへのバージョンアップ時のご注意 ならびに新機能ご紹介

明京電機株式会社  
1.0版(2025/2作成)

弊社リブーター<sup>®</sup>WATCH BOOT light [RPC-M5CS]を平素ご利用いただき、誠にありがとうございます。

ファームウェアを「1.00F」やそれ以前のバージョンから「4.30A」にバージョンアップを行うお客様は、「1.バージョンアップの前に」の手順を実行した後、バージョンアップを行ってください。

また、追加機能、変更機能については、4. 新機能ご紹介および変更点のご説明をご覧ください。

※1.30Aからのバージョンアップ後には「必ず初期化」していただく必要があります。

注意:書換後ダウングレードを行うことはできません。ユーザーHTML機能をご利用のお客様は、現状のままご使用ください。

### 1. バージョンアップの前に

(本項は1.00D以前のファームウェアからのバージョンアップを行う際の手順です。  
4.00A以降のファームウェアからのバージョンアップの際は2.[3]からご覧ください。)

バージョンアップ前に、必ず[1]～[3]の手順に沿って設定変更を行ってください。

また、バージョンアップ後に再設定できるように設定内容をお控えください。

新バージョンではWEB画面上で設定できるようになります。(ユーザーHTMLを除く)

#### [1] 通知先設定, 送信条件フラグの変更

《バージョンアップ前》

通知先設定				
No.	通知先アドレス			
アドレス1				
アドレス2				
アドレス3				
アドレス4				
アドレス5				
アドレス6				
アドレス7				
アドレス8				

送信条件フラグ				
No.	F1	F2	F3	F4
アドレス1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

F1:PING F2:温度 F3:スケジュール F4:ハートビート

《バージョンアップ後》

通知先設定		
No.	種類	通知先アドレス
アドレス1	TO ▼	
アドレス2	TO ▼	
アドレス3	TO ▼	
アドレス4	TO ▼	
アドレス5	TO ▼	
アドレス6	TO ▼	
アドレス7	TO ▼	
アドレス8	TO ▼	

送信条件フラグ								
No.	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8
アドレス1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## (1) 通知先アドレス削除

### 〈1〉 Toのみ設定されている場合(WEB画面でのみ設定されている場合)

「通信設定-メール設定」の「通知先設定」で「通知先アドレス」に設定されているメールアドレスをすべて削除します。

No.	通知先アドレス
アドレス1	aaa@meikyo.co.jp
アドレス2	bbb@meikyo.co.jp
アドレス3	ccc@meikyo.co.jp
アドレス4	ddd@meikyo.co.jp
アドレス5	
アドレス6	fff@meikyo.co.jp
アドレス7	
アドレス8	

No.	通知先アドレス
アドレス1	
アドレス2	
アドレス3	
アドレス4	
アドレス5	
アドレス6	
アドレス7	
アドレス8	

削除後、ページ下部の「適用」をクリックしてください。

### 〈2〉 CC, BCCの設定がされている場合

RPC-M5CSの1.00A～Fのファームウェアをお使いの場合、メール通知をCCやBCCで送信する設定、解除を「シリアル通信」か「Telnet通信」で行います。

「シリアル通信」「Telnet通信」のいずれかで、Admin権限もしくはSupervisor権限でログインしてください。設定、解除には、変数mailExtAddrを使用します。

設定状況を確認するには、「?mailExtAddr」と入力し、Enterを押します。

```
ID:
Password:
OK
Noname> ?mailExtAddr
```

```
Noname> ?mailExtAddr=",,,,,,hhh@meikyo.co.jp,,,,,iii@meikyo.co.jp"
Noname> 
```

CC, BCCにのみ設定されている場合、WEB画面ではどのメールアドレスも表示されません。

設定されていたメールアドレスを消去するには、次のように入力し、Enterを押してください。

「.mailExtAddr=""」（最初がピリオド。最後の2文字はダブルクォーテーション2つ）

確認のコールバックが来るので、次の行に「write」と入力し、Enterを押します。

```
Noname> .mailExtAddr=""
mailExtAddr=""
Noname> write 220 Command OK.
Noname> 
```

「220 Command OK」と表示されれば成功です。「quit」や「q」で通信を終了してください。

### 〈1〉WEB画面からの解除

The diagram illustrates the simplification of the configuration table. On the left, a detailed table lists 8 addresses with 4 flags each (F1, F2, F3, F4). A large blue arrow points to the right, where a simplified version of the same table is shown, maintaining the same structure but with a different set of flag values.

送信条件フラグ				
No.	F1	F2	F3	F4
アドレス1	☑	☑	☑	☑
アドレス2	☑	☐	☑	☑
アドレス3	☑	☑	☑	☐
アドレス4	☐	☑	☑	☑
アドレス5	☑	☑	☐	☑
アドレス6	☑	☑	☑	☑
アドレス7	☐	☑	☐	☑
アドレス8	☑	☑	☑	☑

送信条件フラグ				
No.	F1	F2	F3	F4
アドレス1	☐	☐	☐	☐
アドレス2	☐	☐	☐	☐
アドレス3	☐	☐	☐	☐
アドレス4	☐	☐	☐	☐
アドレス5	☐	☐	☐	☐
アドレス6	☐	☐	☐	☐
アドレス7	☐	☐	☐	☐
アドレス8	☐	☐	☐	☐

F1:PING F2:温度 F3:スケジュール F4:ハートビート

## 〈2〉CC, BCCの設定の解除

(最初にピリオド。半角数字の1を8個, 半角コンマ区切りで並べる)

[illegible]

「220 Command OK」と表示されれば成功です。「quit」や「q」で通信を終了してください。

## [2] ユーザーHTML無効化

新バージョンではユーザーHTMLの設定をすることができません。  
そのため、バージョンアップの前にユーザーHTMLの機能を「無効」にします。

「通信設定-通信詳細設定」の「カスタマイズ設定」で、ユーザーHTMLの「設定」をクリックします。  
「ユーザーHTML登録」のページに移動後、「機能」の項目を「無効」にします。その後、ページ下部の「適用」をクリックします。

ユーザーHTML登録

ユーザーHTML設定

登録ファイルなし

参照... ファイルが選択されていません。 読み込み

htmlファイルを指定してください。

- ・ 1行は255文字まで
- ・ 最大サイズは8189バイトまで
- ・ シフトJIS(Shift\_JIS)のみ対応
- ・ html内で%を%%に書き換えてください。

機能

接続ポート 8080

☐ 有効 ☒ 無効

## [3] 状態通知の無効化

新バージョンでは「状態通知」の機能を指定する変数が変更となるため、事前に無効にします。バージョンアップ後に改めて有効にしてください。

「通信設定-通信詳細設定」の「状態通知機能」で、「状態通知機能」の項目を「無効」にします。その後、ページ下部の「適用」をクリックします。

状態通知機能

☐ 有効 ☒ 無効

1	IPアドレス	
	ポート	5000
2	IPアドレス	
	ポート	5000
3	IPアドレス	
	ポート	5000
送信間隔(秒)		300

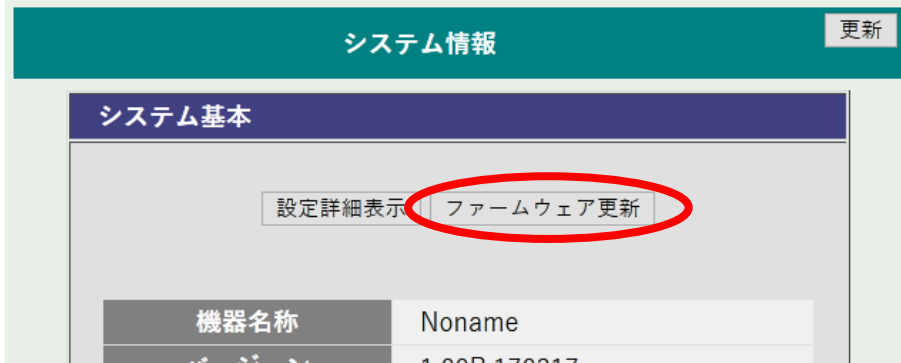
## 2. バージョンアップの方法

### [1] 1.00F以前のバージョンから4.30Aへのバージョンアップ

明京電機株式会社のホームページから、また個別での対応にて提供したバージョンアップファイルを使用してバージョンアップを行う手順を説明します。

明京電機株式会社ホームページ、バージョンアップファイルは  
<http://www.meikyo.co.jp/archive/> でダウンロードが可能です。

「システム情報」をクリックし、「システム基本」の「ファームウェア更新」をクリックします。



「ローカルファイルの選択」の「ファイル選択」をクリックします。



ファイルの選択で、提供されたバージョンアップファイルを選択し、1度だけ[ファイル選択]をクリックしてください。

新型HTMLに切り替わった後、「CPUリセット」を行ってください。その後すぐにご使用になれます。

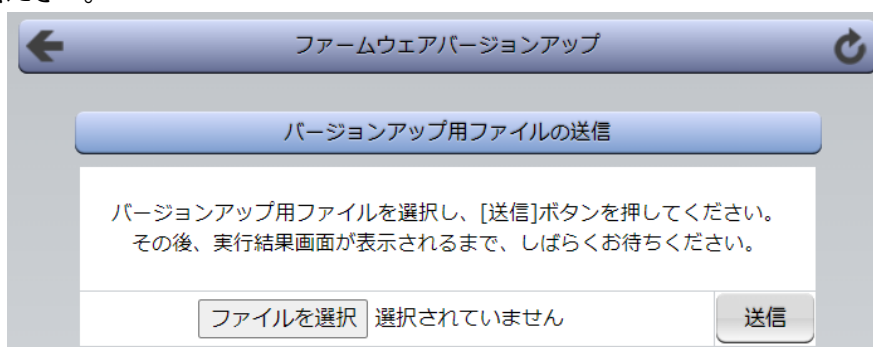
## [2] 1.30Aから4.30Aへのバージョンアップ

バージョンアップ後、変数初期値変更のため「初期化」を行っていただく必要があります。

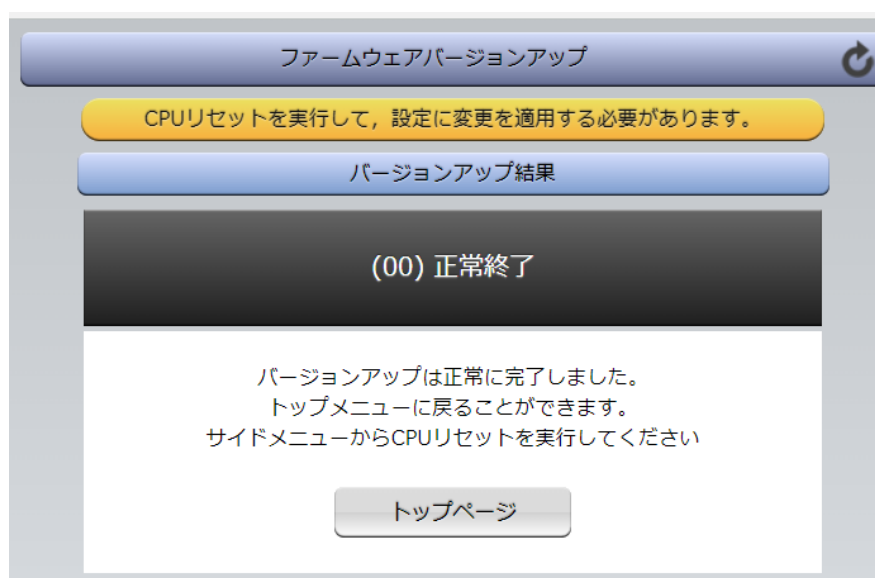
「システム設定」をクリックし、「詳細設定」の「ファームウェア更新」をクリックします。

「ローカルファイルの選択」の「ファイル選択」をクリックします。

「ファイルを選択」をクリックし、提供されたバージョンアップファイルを選択し、一度だけ[送信]をクリックしてください。



次の画面が表示されれば成功です。左サイドバーにて「CPUリセット」を実行してください。(装置本体のRESETボタン押下も可。)



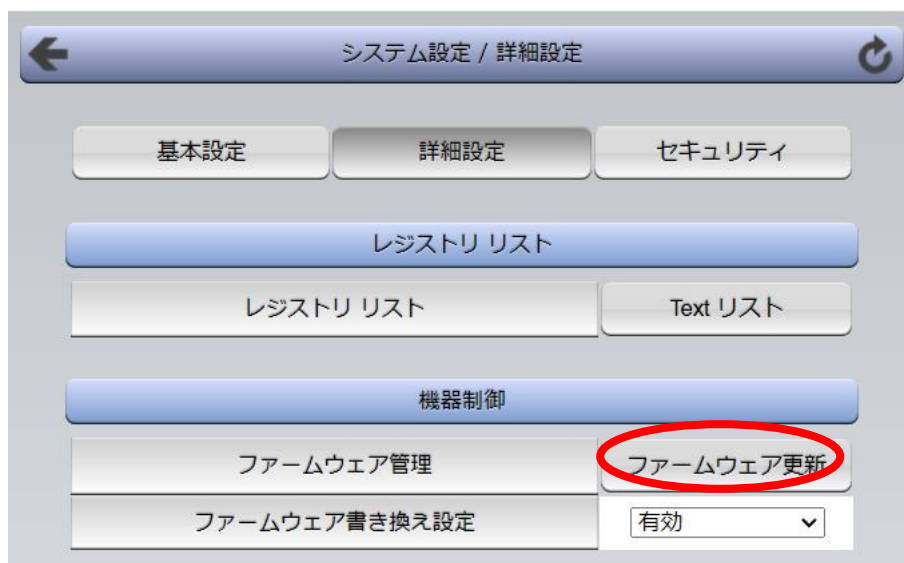
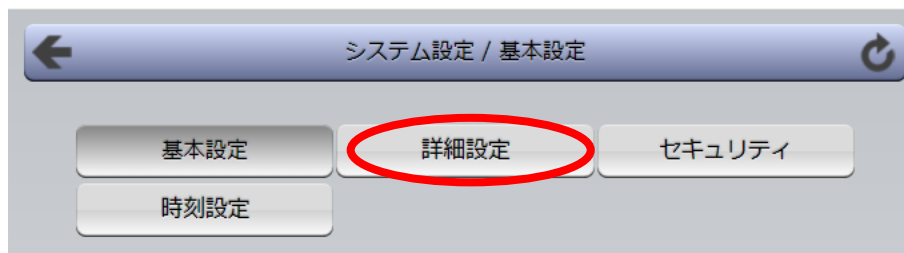
★重要★そして、変数初期値を変更するため「初期化」を実行する必要があります。

【初期化の方法】

- 0) 本体電源コードを抜いておいてください。
- 1) 本体前面DIPスイッチ1と3だけON(下)にします。
- 2) 本体電源コードをコンセントに挿し、電源供給します。
- 3) 本体前面LINK LEDが5秒間点灯します。その間に本体前面RESETスイッチを押します。  
(LINK LEDが消灯してしまったときは0)からやり直してください。)
- 4) 初期化が成功したときはLINK LEDとACT LEDが点灯します。
- 5) 初期化後はメンテナンスモードにて「同意」ところから始まります。DIPスイッチ3だけをONにして、192.168.10.1にアクセスしてください。

### [3]4.00A,4.10A,4.20Aから4.30Aへのバージョンアップ

「システム設定」をクリックし、「詳細設定」の「ファームウェア更新」をクリックします。

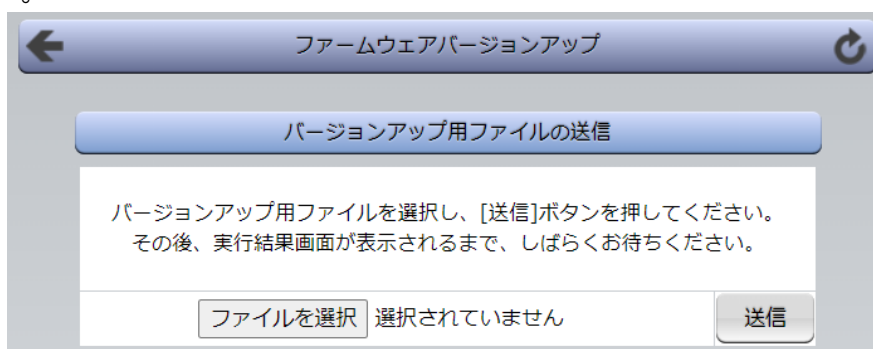


「ローカルファイルの選択」の「ファイル選択」をクリックします。

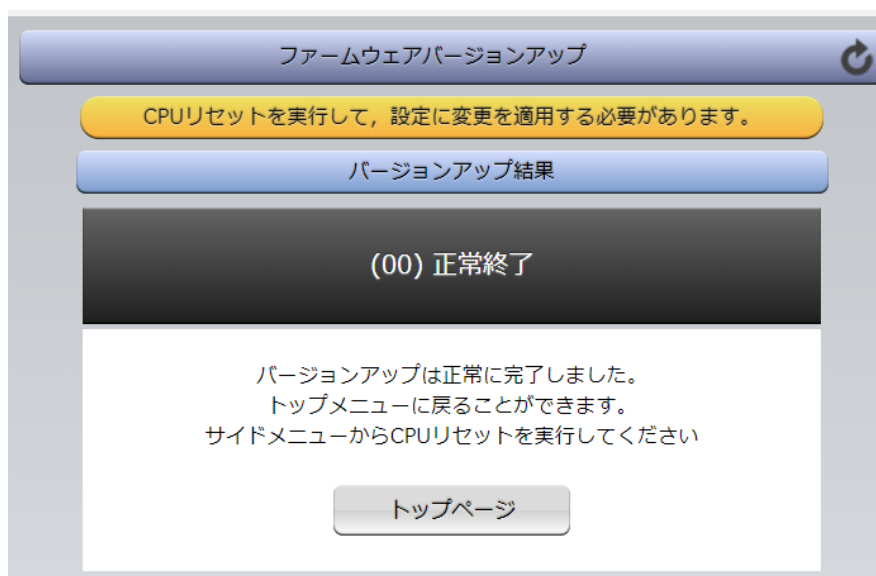




「ファイルを選択」をクリックし、提供されたバージョンアップファイルを選択し、一度だけ[送信]をクリックしてください。



次の画面が表示されれば成功です。左サイドバーにて「CPUリセット」を実行してください。(装置本体のRESETボタン押下も可。)



## [4] 何かのアクシデントでバージョンアップに失敗した場合

本装置は、バージョンアップに失敗しても、「データ再送」画面が表示されるか、バージョンアップ前のファームウェアで動作する仕様となっています。アップデートの途中で停電や通信途絶が発生し、バージョンアップに失敗した場合、以下の手順でデータ再送を行ってください。

この時に、**本装置のRESETボタンを押さないようにしてください。**

通信途絶/回復の頻度とタイミングによっては、RESETボタンを押すとお客様の手元での再書き込みが不可能な状態になってしまうおそれがあります。(不可能状態に陥った場合、弊社カスタマーサポートにご連絡ください。)

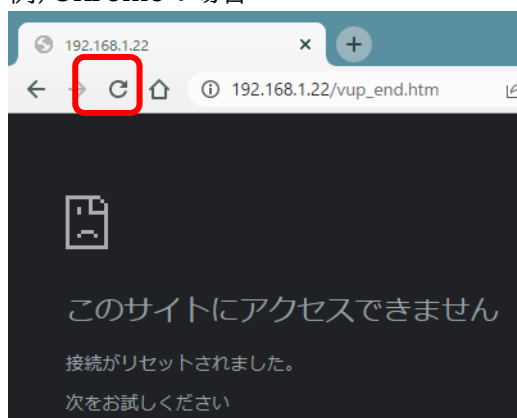
発生した状況に合わせて、以下の対応を行ってください。

- 通信途絶したが、WEBブラウザが待機中となっている場合



↑ 待機中はそのままお待ちください。

- 通信途絶の時間が長く、WEBブラウザからHTTPリクエストが途絶えた場合  
例) Chromeの場合



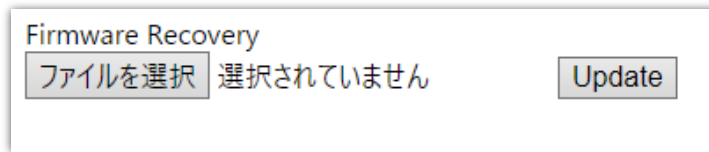
↑ 「再読み込み」ボタンをクリック(その後、[続行]やそれに類するボタンをクリック)してください。

- 停電やコンセント抜けでリブーターの電源がOFFとなった場合  
一度WEBブラウザを閉じてから、再度WEBブラウザを開いてリブーターにアクセスしてください。ログアウト画面が表示された場合は、ログインボタンをクリックしてください。
- 更新中にWEBブラウザを閉じた場合  
WEBブラウザを開き、リブーターにアクセスしてください。

そうしますと、WEB画面に以下のいずれかの画面が表示されます。

- ログイン画面が表示され、ログイン後はメニューと簡易情報表示画面になる  
そのままご使用いただけますが、使用前にシステム情報を開き、バージョンを確認してください。旧バージョンの場合は、再度バージョンアップを行ってください。

●WEB画面に以下の表示が出る



この場合は「ローカルファイル選択によるアップデート」を実施する必要があります。

バージョンアップファイルは明京電機株式会社ホームページにあります。

<https://www.meikyo.co.jp/archive/>の、「アップデート(ファームウェア & ソフトウェア)」のセクションから該当機種バージョンアップファイルをダウンロードしてください。

WEB画面の「ファイルを選択」をクリックし、用意したバージョンアップファイルを選択します。その後、「Update」をクリックし、アップデートを実施します。

「Update」クリック後は、しばらくお待ちください。

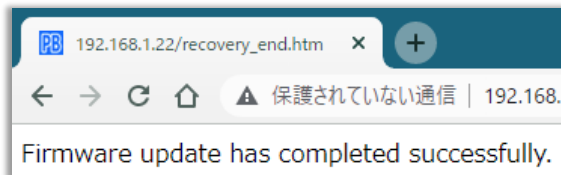
↓ Webブラウザにて「待機中」になっている間はそのままお待ちください。



1分以上経過しても表示が変わらない場合のみ、本体RESETボタンを押して再び実行してください。

(初期化は絶対にしないでください。正常稼働しなくなります。)

成功すると、



と表示されます。この後、リブーターのIPアドレスにアクセスし、「CPUリセット」を実行します。

### 3. バージョンアップ後のご注意

([2]以降は1.00Fよりも以前のバージョンをご利用の方へとなります)

#### [1] オンラインにてファームウェアアップデートご使用の方

電源管理クラウド365からのファームウェアアップデートを行う場合は、事前に、リブーターの設定で[システム設定]-[詳細設定]-「機器制御」の「ファームウェア書き換え設定」を[有効]または[オンラインのみ]に設定してください。(リブーターのデフォルト値は[有効]です。)

#### [2] 以前より「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」機能をご使用の方

以前より「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」機能をご使用の方は、追加で以下の設定をする必要があります。

メール制御 : 「ガードタイム方式」選択必須

ダイレクトWEBコマンド : 「ガードタイム方式」かつ「制御動作確認:なし」選択必須

10ページの《新機能詳細》の[1][2]の設定を行ってからご使用ください。

#### [3] 通知先設定, 送信条件フラグの再設定

以前よりメール通知機能をご使用の方は、改めて設定が必要です。

「ネットワーク設定」-「メール設定」で、「通知先設定」, 「送信条件フラグ」を設定します。  
バージョンアップ前に控えた内容を設定してください。

## [4] 状態通知の有効化

以前より状態通知機能をご使用の方は改めて設定が必要です。

「ネットワーク設定」-「詳細設定」-「状態通知機能」で，[RPC EYE]を選択します。

## 4. 新機能ご紹介および変更点のご説明

### 《大きな追加機能》

- ・電源管理クラウド365WEB画面で設定したスケジュールが、リブーターに設定書き込み可能となりました。(従来のPOC365サーバーからのコマンド発行によるスケジュール制御も選択可能です)

仮にリブーター側で通信途絶などが生じ、POC365サーバーに繋がらない状態でもリブーター側に書き込まれて設定されたスケジュールで確実に実行するようにできます。

★ご注意:サーバーからリブーターにスケジュール設定可能状態にしたとき、リブーター(RPCシリーズ)にそれ以前に設定されていた「全スケジュールが消去されて、サーバー側で書き込み指定したスケジュール設定が書き込まれる」仕様となっています。

また、RSCシリーズではこの「スケジュール設定書き込み機能」は対応しておりません。RSCシリーズは従来のサーバーからのコマンド発行によるスケジュール制御をご利用ください。

- ・電源管理クラウド365WEB画面からのオンラインバージョンアップに対応しました。

また4.10A以降は(ローカルファイルバージョンアップだけでなく)オンラインバージョンアップも可能になります。(電源管理クラウド365WEB画面でも、リブーターWEB画面でも可能です。)。※電源管理クラウド365をご使用になるには、保守パックのご契約が必要となります。

《1.00Fよりも前のファームウェアをご使用のお客様》

- ・従来の「排他制御方式」に加え、「ガードタイム方式」も選択可能に。

- ・WEB画面での電源制御、仮想アウトレット制御(WOL送信)時、確認ポップアップなしに即制御実行可能に。

- ・上記の機能追加に伴い、

- メール制御、新機能のMPMP制御での電源制御を実行するには「ガードタイム方式」選択必須。
- ダイレクトWEBコマンドでの電源制御を実行するには「ガードタイム方式」ならびに「電源制御時の動作確認:なし」選択必須。

となりました。

- ・一斉電源制御に改良を加えました。

親機としてコマンド実行後の結果通知をさらに改良しました。

「ガードタイム方式」選択時、子機側リブーターのWEB画面操作が可能になりました。

- ・電源管理クラウド365に対応しました。

電源管理クラウド365をご使用になるには、保守パックのご契約が必要となります。

※1.30Aでは電源管理クラウド365とは連携できなくなりました。必ず4.20A以降にしてください。

- ・SNMP TRAPの表現修正。

<https://www.meikyo.co.jp/archive/#mib> から取得できる最新のMIBファイルをご利用ください。

## 《大きな変更点》

《1.00Fよりも前のファームウェアをご使用のお客様》

・「メール通知」を行う通知先メールアドレスの設定, 送信条件フラグ

→TO, CC, BCCの設定がWEB画面上で行えるようになりました。

→送信条件フラグが全機種共通の仕様に統一されました。

通知先メールアドレスの設定を行う変数, 送信条件フラグに関する変数が大幅に変わりました。旧バージョンで「メール通知」に関連した設定を残したままバージョンアップを行うと, 設定がうまく引き継がれず, 動作が不安定になるおそれもあります。「1. バージョンアップの前に」の手順を行った後でバージョンアップを行ってください。

・新型HTMLへの移行

新機種で採用されているWEB画面に変更されます。設定できる項目は同じですが, 「時刻設定」や「ファームウェア更新」などの項目が, より適切なカテゴリーに移動しています。どの機能がどのカテゴリーに含まれているかは, 明京電機株式会社のホームページにアップされている4.20A用詳細取扱説明書をご参照ください。

詳細取扱説明書はこちら: <http://www.meikyo.co.jp/download/>

・ユーザーHTML機能削除

1.00Bのバージョンから弊社の他の新機種同様, ユーザーHTMLが使用できなくなります。

★ユーザーHTMLを使用し続けることをご希望になるお客様はバージョンアップせず, 現状のファームウェアのままご使用ください。

## 《変数の差異》

《1.00Fよりも前のファームウェアをご使用のお客様》

■機能追加により, 以下の変数がListに追加されています。

debOlControlSAEnabled

WEBからの電源操作時, ポップアップでの確認表示有無(デフォルト:0[あり])

debOlControlGTEnabled

電源制御方式(0[デフォルト]:排他制御方式 1:ガードタイム方式)

debOlControlOnGuardTime

[ガードタイム方式時]ON/REBOOT操作後のガードタイム(デフォルト10秒)

debOlControlOffGuardTime

[ガードタイム方式時]OFF操作後のガードタイム(デフォルト10秒)

centerCmdHostID

MPMPによるコマンド制御で使用するID(3箇所設定可能)

centerCmdPassword

MPMPによるコマンド制御で使用するパスワード(3箇所設定可能)

scEnabled

サーバー制御有効化(0[デフォルト]:無効 1:有効)

■従来機能の改良により, 以下の変数がListに追加されています。

mailExtKind

メール送信の種類(TO, CC, BCCの選択)

hbHeartbeatChar

ハートビートパケット文字列(デフォルト:HB)

hbHeartbeatSource=0

HB監視:電源供給アウトレット(デフォルト:0)

■機能追加に伴い, 以下の変数が変更となります。

msrpEnabled から syslogEnabled へ変更  
状態通知の有効化(デフォルト:0)

■使用されていない変数のため, 以下の変数をListから削除しました。

mailLogoutTime  
terminalId  
httpCommandReturn  
httpCommandSet  
httpPageStart



## 《新機能詳細》

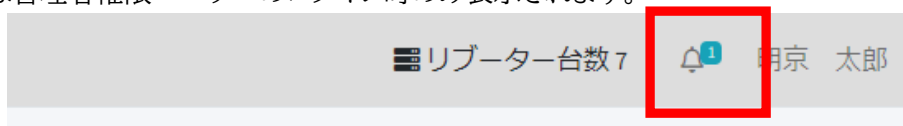
([2]以降は1.00Fよりも以前のバージョンをご利用の方への内容となります)

### [1] 【4.10A以降にバージョンアップしてから】電源管理クラウド365からのオンラインバージョンアップ

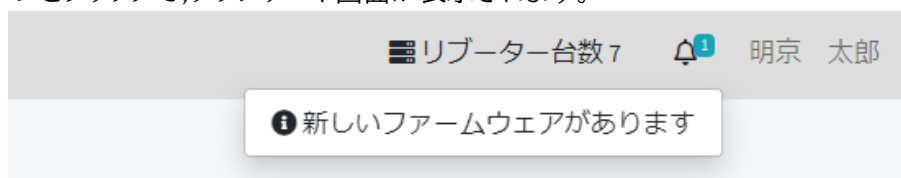
4.10A以降にアップデートすることにより、次回以降のファームウェアアップデートを電源管理クラウド365から行うことができます。

**注意** 正常にファームウェアアップデートが完了すると、自動でリブーターのCPUリセットが行われます。  
CPUリセットに伴いアウトレットの状態は変化いたしません、イベントログが消去されます。リブーターのログが必要な場合は事前に保存してください。

アップデートが可能になると、ダッシュボードに通知が表示されます。  
通知は管理者権限ユーザーのログイン時のみ表示されます。



通知マークをクリックでメッセージが表示されます。  
メッセージをクリックで、アップデート画面が表示されます。



アクティベートされたリブーターが一覧で表示されます。  
アップデート可能なリブーターは赤背景で表示されます。  
ファームウェアアップデート未対応のリブーターはステータスに「未対応リブーター」と表示されます。  
未対応リブーターはリブーターのWEB画面からアップデートを行う必要があります。

🏠 リブーターファームウェア管理 🔍 戻る

リブーターファームウェア管理

行をクリックで選択/選択解除 ☒ 未アップデートを全選択 ☐ 全解除

デバイス名称	機器	現在のファームウェア	最新のファームウェア	ステータス
リブーター-0004 RPC-M5CS	WATCH BOOT light RPC-M5CS	4.00A.230628	4.10A.230630	
リブーター-0005 RPC-M4LS	WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS	4.00A.230123		未対応リブーター
リブーター-0008 RPC-M2CS	WATCH BOOT nino RPC-M2CS	4.10A.230630	4.10A.230630	

3件中 1~3件を表示 前 1 次

🔄 アップデート実行 🔍 戻る

アップデートを行うリブーターの行をクリックして、アクティベートするリブーターを選択します。  
 [未アップデートを全選択]をクリックでアップデート可能なリブーターをすべて選択することができます。

三 明京 太郎

🏠 リブーターファームウェア管理 🔍 戻る

リブーターファームウェア管理

行をクリックで選択/選択解除 ☒ 未アップデートを全選択 ☐ 全解除

デバイス名称	機器	現在のファームウェア	最新のファームウェア	ステータス
リブーター-0004 RPC-M5CS	WATCH BOOT light RPC-M5CS	4.10A.230628	4.10A.230630	
リブーター-0005 RPC-M4LS	WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS	4.00A.230123		未対応リブーター
リブーター-0008 RPC-M2CS	WATCH BOOT nino RPC-M2CS	4.10A.230630	4.10A.230630	

3件中 1~3件を表示 前 1 次

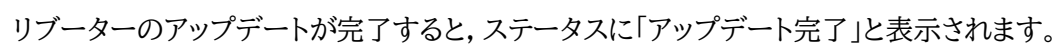
🔄 アップデート実行 🔍 戻る

[アップデート実行]をクリックで確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。

選択されたリブーターのファームウェアを更新します。よろしいですか？

はい いいえ

ファームウェアのアップデートが実行されます。実行中のリブーターは背景が灰色となり、ステータスが「リブーター待機中」または「アップデート中」となります。  
 背景が灰色の間は、リブーターの操作を行うことはできません。



《1.00Fよりも前のファームウェアをご使用のお客様》

## [2]ガードタイム方式による多重ログイン

電源制御可能なユーザー[Admin権限, Control権限]がWEB, Telnet, シリアル, メールなどでログインしている時には, 他の電源制御可能なユーザーはログインできない「排他制御方式」に加え, ガードタイムを設けることで電源制御可能な複数のユーザーがログインし, 制御を実行可能な「ガードタイム方式」を選択できるようになりました。(方式を切り替える際, 同意を求めるポップアップが表示されます。)

IPアドレスが

RPC-M5CS : 192.168.1.33  
端末A : 192.168.1.10  
端末B : 192.168.1.25 となっているとします。

### ●従来の「排他制御方式」

下の画面のように, 端末AからRPC-M5CSのWEB画面にAdmin権限でアクセスしているとします。

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			ON
2	Outlet2			ON
3	Outlet3			ON
4	Outlet4			ON

この状態で, 端末BからAdmin権限でログインを試みると「排他制御方式」の場合はログインできません。

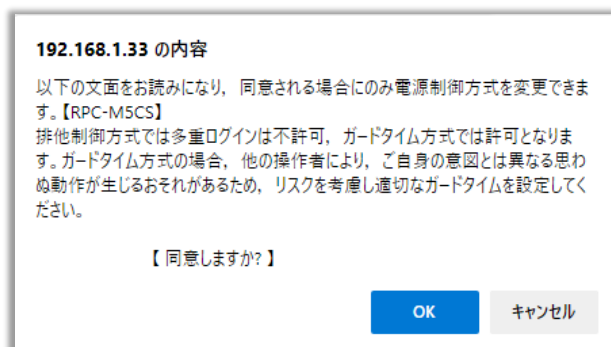


## ●新機能「ガードタイム方式」

「システム設定」-「セキュリティ」-「共通設定」-「電源制御方式」にて設定することができます。



[変更]をクリックすると、同意確認画面が表示されます。



「OK」をクリックすると、CPUリセットが要求されます。左サイドバーの[CPUリセット]から、CPUリセットを実行します。

← システム設定 / セキュリティ

基本設定   詳細設定   セキュリティ   フィルター

CPUリセットを実行して、設定に変更を適用する必要があります。

共通設定

電源制御方式   ガードタイム方式   変更

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒)	10
OFF後, ガードタイム(秒)	10

[ON/REBOOT後, ガードタイム][OFF後, ガードタイム]を設定できます。

「ガードタイム方式」であれば、端末A, 端末B両方からRPC-M5CSに多重ログインすることが可能になります。(電源制御後, 指定のガードタイム[デフォルト10秒]が働きます。)

← → ↺ セキュリティ保護なし | 192.168.1.33

WATCH BOOT light  
RPC-M5CS

状態表示  
簡易状態表示  
詳細状態表示  
イベントログ  
制御  
電源制御  
機器設定  
システム設定  
ネットワーク設定  
監視設定  
スケジュール  
システム情報  
簡易説明  
CPUリセット

admin  
192.168.1.10  
admin

← 簡易状態表示

機器情報

機器名称   Noname  
設置場所   Nowhere

アウトレット状態

No.	名称
1	Outlet1
2	Outlet2
3	Outlet3
4	Outlet4

↑

← → ↺ セキュリティ保護なし | 192.168.1.33

WATCH BOOT light  
RPC-M5CS

状態表示  
簡易状態表示  
詳細状態表示  
イベントログ  
制御  
電源制御  
機器設定  
システム設定  
ネットワーク設定  
監視設定  
スケジュール  
システム情報  
簡易説明  
CPUリセット

admin  
192.168.1.25  
admin

ログアウト

← 簡易状態表示

機器情報

機器名称   Noname  
設置場所   Nowhere

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			ON
2	Outlet2			ON
3	Outlet3			ON
4	Outlet4			ON

↑

### [3]制御確認 2段階／即時実行の切替

電源制御, 仮想アウトレット制御(WOL送信)において, デフォルトでは制御ボタンをクリック後「制御動作確認」のポップアップが表示され, [OK]ボタンをクリックすることで制御が実行されます。  
(ダブルアクションによる, 操作者の意図確認)

1.30Aならびに4.00Aのファームウェアでは「制御動作確認」のポップアップの非表示設定が可能になりました。

#### ●従来の動作確認「あり」方式

電源制御, 仮想アウトレット制御(WOL送信)で制御ボタンをクリックすると, 下図のように動作確認のポップアップが表示され, [OK]クリック後に制御が実行されます。





## ●動作確認「なし」方式

「システム設定」-「基本設定」-「アウトレット設定」-「電源制御時の動作確認」で設定します。  
(デフォルト値:「あり」)

この項目で「なし」を選択し、画面下部の[適用]をクリックします。

WATCH BOOT light  
RPC-M5CS

状態表示  
簡易状態表示  
詳細状態表示  
イベントログ  
制御  
電源制御  
機器設定  
システム設定  
ネットワーク設定  
監視設定  
スケジュール  
システム情報  
簡易説明  
CPUリセット  
admin  
192.168.1.10

システム設定 / 基本設定

基本設定 詳細設定 セキュリティ  
時刻設定

※特殊記号は利用不可

機器情報

機器名称 Noname  
設置場所 Nowhere

アウトレット設定

No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	Outlet1	0	10	1	1
2	Outlet2	0	10	2	2
3	Outlet3	0	10	3	3
4	Outlet4	0	10	4	4

全アウトレットREBOOT時間 (秒) 10

電源制御時の動作確認 あり ▼

OFFを「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。  
ONを「-1」にすると全アウトレットON時に電源出力しません。  
STARTを「-1」にすると本体起動時に電源出力しません。

これにより、電源制御、仮想アウトレット制御(WOL送信)で制御ボタンをクリック後、即時、その制御が実行されるようになります。

## ●メール、ダイレクトWEBコマンド、MPMPでの電源制御について

1.30Aならびに4.00A以降のファームウェアから、以下の選択が必須となります。

- ・メールによる電源制御 「ガードタイム方式」選択必須
- ・ダイレクトWEBコマンドによる電源制御 「ガードタイム方式」かつ「制御動作確認:なし」選択必須
- ・MPMPでの電源制御 「ガードタイム方式」選択必須

選択せずに実行すると、

「511 Command failed. Select the appropriate mode.」

というエラーコードが表示され、電源制御は実行されません。



## [4]一斉電源制御

一斉電源制御の結果通知をさらに改良しました。

### ●親機として使用する場合

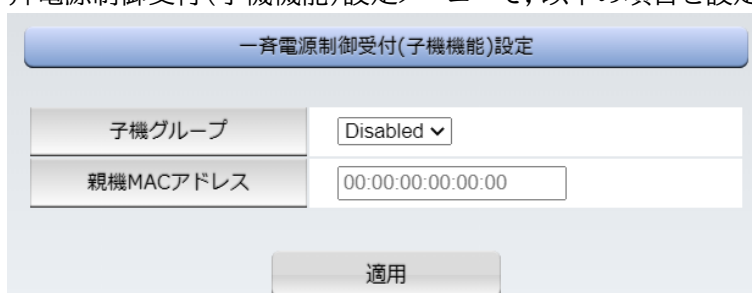
WEB画面の「電源制御」→「一斉制御」から、グループ指定・実行コマンドを指定して「送信」クリック後、3秒待機ののちに、子機応答結果を表示するようになりました。

### ●子機として使用する場合の設定(「ガートタイム方式」選択時)

「ガートタイム方式」選択時のみ、メンテナンスモードに切り替えずにWEB画面にて設定を行うことが可能になりました。(FW:1.00系では、メンテナンスモードでのみ設定可能な項目でした。)

「ネットワーク設定」-「詳細設定」をクリックします。

一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで、以下の項目を設定できます。



子機グループ : Disabled Group1~8  
デフォルト Disabled

親機MACアドレス : 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを入力します。  
適用をクリックし、CPUリセットを行います。

(これまでどおり、メンテナンスモードでこれらの項目を設定することもできます。)

### ●Telnet, シリアルでの制御と応答

Telnet, シリアルでも一斉電源制御を親機として実行できるようになりました。使用するコマンドは以下です。

(x=1~8, xはグループ番号を示します)

BPONx :	該当グループ全アウトレットの電源出力開始
BPOFx :	該当グループ全アウトレットの電源出力停止
BPORx :	該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート)

実行の後、親機のコマンド実行結果応答に加えて、子機の応答結果が表示されます。

## [5]電源管理クラウド365側スケジュール設定書き込み機能

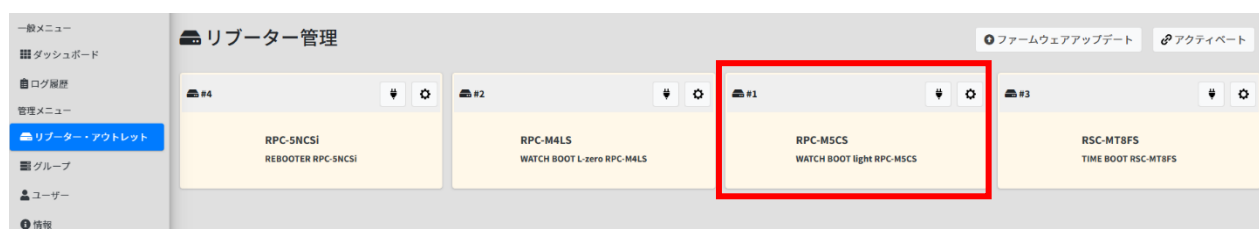
電源管理クラウド365のスケジュール登録画面から、リブーター側のスケジュール設定に書き込みをするか選択できるようになりました。

注意 (サーバー連携機能有効化にも「NTPサーバー」設定は必須のため、既に設定済みと考えられますが)スケジュール設定を使う場合はNTPサーバーの設定が必要になります。

### ●リブーターのスケジュール設定書き込み機能有効化

★こちらの設定を行うことで電源管理クラウド365WEB画面の「アウトレット」-「スケジュール」-「スケジュール追加」で「このスケジュールをリブーターに書き込み」ボタンが表示されるようになります。この機能を利用される際は、必ずリブーターごとに設定を行ってください。

電源管理クラウド365の「管理メニュー」-「リブーター・アウトレット」でスケジュール設定したいリブーターを選び、右上の歯車マークを選択します。



リブーター登録の画面で「スケジュール設定をリブーターに書き込み」を有効にし、保存します。

機種名  
WATCH BOOT light RPC-M5CS

ファームウェアバージョン  
4.30A.250128.4

デバイスNo.  
1

デバイス名称  
RPC-M5CS

使用切り替え  
☒ 許可

**スケジュール設定をリブーターに書き込み**  
☒ 有効

「有効」・・・電源管理クラウド365がリブーター内部スケジュールを管理します。リブーター内部スケジュールは、電源管理クラウド365上で登録した指定スケジュールで上書きされます。  
「消去」・・・電源管理クラウド365によるリブーター内のスケジュール管理を中止します。電源管理クラウド365が書き込んだスケジュールをリブーター内から消去します。

画像URL

デバイスメモ  
メモを入力

保存 削除 戻る

## ●スケジュール設定書き込み機能「する」と「しない」比較

電源管理クラウド365からスケジュール登録をしたいアウトレットを選択し、「スケジュール」-「スケジュール追加」を選択し、保存します。

☒ 曜日を指定する ☐ 日付を指定する

月	火	水	木	金	土	日
---	---	---	---	---	---	---

時間を指定

動作

有効/無効



☒ 有効

このスケジュールをリポーターに書き込み

☐ しない

「する」・・・このスケジュールはリポーター内部スケジュールに書き込まれます。このスケジュールはリポーターが実行します。

「しない」・・・このスケジュールはリポーター内部スケジュールには書き込まれません。このスケジュールは電源管理クラウド365が実行します。

リブーターに書き込み「する」	リブーターに書き込み「しない」
電源管理クラウド365WEB画面	
 <p>スケジュール設定をリブーターに書き込んだ場合、仮にスケジュールした時間に通信途絶が起こっていたとしても、リブーター内部のコマンド実行によってスケジュール機能が実行されます。</p>	 <p>スケジュール設定をサーバーから実行の場合、サーバーから指定の時刻にコマンドを置き、スケジュール機能が実行されます。仮にその時間に通信途絶が起こっていた場合、1分以上の途絶が起こるとコマンドが自動で破棄されます。</p>
RPC-M5CS WEB画面	
 <p>リブーターに書き込まれると、RPC-M5CSのWEB画面でもスケジュールリストも更新されます。</p>	 <p>サーバーから実行のみの場合はスケジュールリストに反映されません。</p>

## ●複数アウトレットにスケジュール設定書き込み

複数のアウトレットをグループ登録し、スケジュール設定書き込み機能をまとめて書き込むことができます。

例 電源管理クラウド365WEB画面-管理メニューの「グループ」-「グループ追加」-「アウトレット選択・選択解除」からRPC-M5CSのアウトレット1、3をグループに設定します。

**グループ登録** 自スケジュール 戻る

---

**グループ**

グループNo.  
6

グループ名称  
グループ1

---

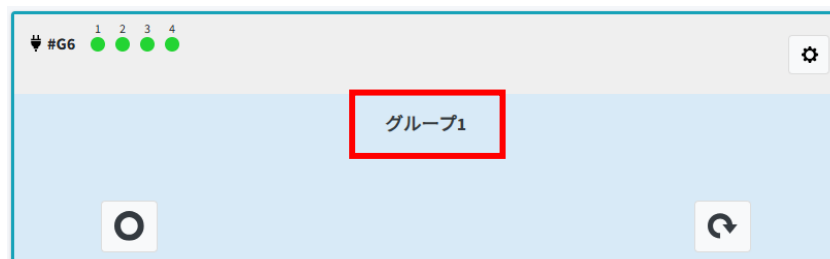
▼ このグループに所属するアウトレット ▼ アウトレット選択・選択解除

▼ #G6-1(#1-1)  
アウトレット0001-1

▼ #G6-2(#1-3)  
アウトレット0001-3

保存 削除 戻る

グループのスケジュール設定をする方法は2通りあります。  
 ①電源管理クラウド365のWEB画面-一般メニューの「ダッシュボード」から先ほど作ったグループを選択し、「スケジュール」-「スケジュール追加」で設定。



②電源管理クラウド365WEB画面-管理メニューの「グループ」から先ほど作ったグループの右上にある歯車アイコンを選択し、画面右上に出てくる「スケジュール」-「スケジュール追加」で設定。



スケジュールを以下のように設定し、「リブーターに書き込み」を有効にし、保存します。

スケジュール登録

戻る

スケジュール登録 #G6 グループ1

グループNo.

6

グループ名称

グループ1

曜日指定

月

火

水

木

金

土

日

時間を指定

10:00

動作

リブート

有効/無効

有効

このスケジュールをリブーターに書き込み

する

「する」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールに書き込まれます。このスケジュールはリブーターが実行します。

「しない」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールには書き込まれません。このスケジュールは電源管理クラウド365が実行します。

保存

戻る

RPC-M5CSのWEB画面-「スケジュール」を見ると先ほどのスケジュール設定がアウトレット1, 3にそれぞれ書き込まれていることを確認できます。

WATCH BOOT light  
RPC-M5CS

状態表示

簡易状態表示

詳細状態表示

イベントログ

制御

電源制御

機器設定

システム設定

ネットワーク設定

監視設定

スケジュール

システム情報

スケジュール設定

スケジュールリスト

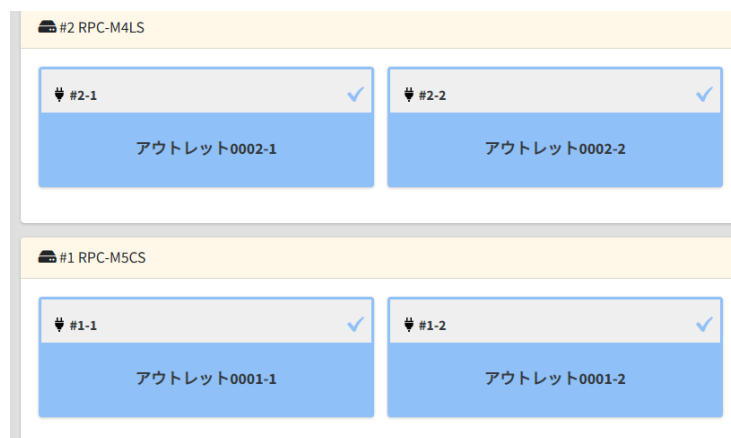
No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	火	10	0	Reboot
3	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	水	10	0	Reboot
4	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	木	10	0	Reboot
5	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	金	10	0	Reboot
6	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	月	10	0	Reboot
7	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	火	10	0	Reboot
8	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	水	10	0	Reboot
9	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	木	10	0	Reboot
10	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	金	10	0	Reboot
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

30

## ●複数リブーターのアウトレットにスケジュール設定書き込み

他機種のリブーターのアウトレットを個別に選択しグループを作成することで、スケジュール設定書き込み機能を複数リブーターのアウトレットに反映させることができます。

例 **RPC-M5CS**と**RPC-M4LS**の2台のリブーターのアウトレット1, 2をそれぞれ選択しグループを作成します。



下記のようにグループのスケジュール設定を行い、「リブーターに書き込みする」と選択します。

**RPC-M5CS**のWEB画面-「スケジュール」を開くと、スケジュール設定がリブーターに書き込まれていることを確認できます。

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	月	10	0	Reboot
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

同様にRPC-M4LS側でもスケジュール設定がリブーターに書き込まれていることを確認できます。

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	月	10	0	Reboot
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

注意:電源管理クラウド365からスケジュール設定をリブーターに書き込むと、それまでRPC-M5CSのWEB画面から設定していたスケジュール設定は全て削除されます。

例 RPC-M5CSのWEB画面で以下のようにスケジュール設定がなされている状態とします。

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	火	10	0	Reboot
3	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	水	10	0	Reboot
4	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット4	木	10	0	Reboot
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

この状態で電源管理クラウド365WEB画面からアウトレット1のみ以下のようにスケジュール設定をし直し、「リブーターに書き込み」を選択し、保存します。



☒ 曜日を指定する    ☐ 日付を指定する

月 火 水 木 金 土 日

時間を指定

動作

有効/無効  
☒ 有効

このスケジュールをリブーターに書き込み  
☒ する

「する」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールに書き込まれます。このスケジュールはリブーターが実行します。  
 「しない」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールには書き込まれません。このスケジュールは電源管理クラウド365が実行します。

RPC-M5CSのWEB画面に戻り、再度スケジュール画面を表示すると電源管理クラウド365WEB画面から設定したスケジュールに上書きされており、書き込み前のスケジュール設定は全て削除されます。

スケジュール設定						
スケジュールリスト						
No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	金	10	0	Reboot
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

以上